

2022年10月度 検査結果の概要

簡略な説明のため、必要に応じ個表を参考にしてください。

* 放流水等水質調査結果【(1)表】

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500~700 以上、分けつ期 700~1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4~8 月限定)	430~500	非利水期となり通常の運転をしています。 問題ありません。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	0.5 未満~1.1	処理目標値以下で、問題ありません。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	1~2	処理目標値以下で、問題ありません。
有害物質等 (mg/l)	カドミウム、シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀等の有害金属の調査。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは処理目標値未満の異常のない数値	処理目標値以下で、問題ありません。

自動測定をしている第1期・2期処分場の地下水モニタリング3箇所と第3期処分場の地下水（シート下）を含めたモニタリング2箇所の計5箇所の水質測定結果

なお、環境モニタリング1の電気伝導率(EC)について7月6日よりEC計変換器故障のため連続自動測定ができなくなっていることから、定期的に手動にてECを測定しています

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。	6.3~7.8	従来と変わりなく、問題ありません。
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度が高いほど数値が大きい。	0.2~0.6	従来と変わりなく、問題ありません。

* 公共用水域水質調査結果【(2)表】

エコパーク下流の、古志茂橋（中田川）で採水したものです。また古志茂橋の上流で合流している生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ上流、及び下流から採水しました。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	3	従来どおりの値で、特に変化はありません。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500~700 以上、分けつ期 700~1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	450~490 生活排水 19	非利水期となりましたが、問題ありません。 生活排水も問題ありません。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	0.6~0.8 生活排水 0.5	従来どおりの値で、特に変化はありません。 生活排水も問題ありません。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されるが、その窒素の総量。	2.2~2.3 生活排水 0.62	従来どおりの値で、特に変化はありません。生活排水も問題ありません。同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も従来と変わりません。

今回の測定で、生活排水の影響は見られませんでした。

* 地下水水質調査結果【(3)表】

3ヶ月毎に、第1期・2期処分場の地下水モニタリング3箇所、第3期処分場の地下水モニタリング2箇所及び緑地帯1箇所の計6箇所のモニタリングから採水して総合評価しています。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	水位により多少の変化はあるが、大きく変わることはない。 塩分濃度の指標となる。	11~29	従来どおりの値で、特に変化はありません。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	3~42	3期処分場上流モニタリングの井戸で、SSが42mg/lと濁りが多い状況ですが、問題のない値です。なお、他の5か所は、特に変化はありません。
全窒素 (mg/l)	有機物を含んだ地層に水が浸透し、色々の形態の窒素化合物が地下水に溶け出してきたもの。	0.5~2.0	従来どおりの値で、特に変化はありません。
有害物質等 (mg/l)	法で定められている全ての有害物質等（砒素などの重金属類、PCBなどの有機塩素化合物、シマジンなどの残留農薬など38項目）について測定した。	定量下限値未満もしくは異常のない値でした。	従来どおり、検出されていません。

* 処分場の埋立進捗状況

第3期最終処分場（埋立処理能力937,400m³）への埋立量は、10月の埋立量約9,462m³で累計埋立量が約399,407m³（約42.6%）となりました。